

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11.05

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS
製品コード	2882
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1 - 1
担当部門	技術開発部
担当者	杉浦利彦
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	エンジンルーム、金属部品、自動車室内(プラスチック部分)、コンクリート床の洗浄用・液体(水性タイプ)
作成日	2008年11月10日
改正日	2017年3月1日
整理番号	2882-06

2. 危険有害性の要約

GHS分類

金属腐食性物質	区分 1
皮膚腐食性／刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分 2
水生環境有害性(急性)	区分 3

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

金属腐食のおそれ
 重篤な皮膚の薬傷・目の損傷
 重篤な眼の損傷
 中枢神経の障害のおそれ
 水生生物に有害

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11.05

3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別

・ 混合物

成分名／化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
ポリオキシエチレンアルキルエーテル	2	9002-92-0 68439-50-9	(7)-97
非イオン界面活性剤	非公開	非公開	非公開
陰イオン系界面活性剤	非公開	非公開	非公開
ケイ酸塩	非公開	非公開	非公開
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	10	112-34-5	(2)-422

PRTR法報告物質

PRTRに該当する。

制令番号	物質名	含有量
1種407	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)	2%

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有しない

労働安全衛生法

通知物質： 法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号	物質名	含有量
224の3	ジエチレングリコールモノブチルエーテル	10%

労働安全衛生法

通知物質： 法第57条の1、施行令18条の1別表第9 名称等を表示すべき有害物質

制令番号	物質名
224の3	ジエチレングリコールモノブチルエーテル

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・吸入の影響が遅れて現れることがある。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11.05

皮膚に付着した場合

- ・強アルカリ性の製品なので、石鹼を用いず微温湯を流しながら皮膚の刺激や、ぬるぬるする感じがなくなるまで洗い続ける。1時間以上を要することがある。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・水で洗浄したのちに衣類が皮膚に張りついている場合は、無理にはがしてはならない。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと皮膚障害を生ずるおそれがある。
- ・直ちに医師の診断を受けること。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・腐食性の製品なので、吐き出させるとかえって危険が増す。直ちに医療措置を受ける手配をする。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。
- ・必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5. 火災時の措置

消火剤

- ・この製品自体は、燃焼しない。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11.05

- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・本製品は強アルカリなので、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。必要があればさらに希塩酸、希硫酸等で中和する。下水溝、表流水、地下水に流してはいけない。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。
- ・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・他の容器に移し替えしないこと。

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11.05

- ・取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・容器を密栓すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・耐腐食性あるいは耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
- ・施錠して保管すること。
- ・酸と一緒に保管してはならない。

安全な容器包装材料

- ・軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、ステンレスまたはポリエチレン容器に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
ポリオキシエチレンアルキルエーテル	—	—
非イオン界面活性剤	—	—
陰イオン系界面活性剤	—	—
ケイ酸塩	—	—
ジエチレングリコールモノフェニルエーテル	—	—

保護具

呼吸器の保護具

- ・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

- ・保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・保護衣、保護前掛け等を着用する。

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11. 05

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 無色透明液体
臭い	: 原料臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 13.2
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: なし
自然発火温度(発火点)	: なし
燃焼性(固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: 1.02
溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度(粘性率)	: データなし
その他のデータ	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・ 通常の手扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・ 特になし

避けるべき条件

- ・ 特になし

混触危険性物質

- ・ 酸性物質(アルカリ性物質のため、酸性物質との接触を避けること。)

危険有害な分解生成物

- ・ 特になし

その他

- ・ 特になし

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11. 05

1 1. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ ポリオキシエチレンアルキルエーテル

《急性毒性》
 経口：情報が得られていない
 経皮：情報が得られていない
 吸入（ガス）：情報が得られていない
 吸入（蒸気）：情報が得られていない
 吸入（粉じん・ミスト）：情報が得られていない

《皮膚腐食性/刺激性》
 情報が得られていない

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》
 情報が得られていない

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》
 呼吸器感作性：情報が得られていない
 皮膚感作性：情報が得られていない

《発がん性》
 情報が得られていない

《生殖細胞変異原性》
 情報が得られていない

《生殖毒性》
 情報が得られていない

《特定標的臓器毒性（単回暴露）》
 情報が得られていない

《特定標的臓器毒性（反復暴露）》
 情報が得られていない

《吸引性呼吸器有害性》
 情報が得られていない

・ 非イオン界面活性剤

《急性毒性》
 経口：LD50 >2000mg/kg（経口/ラット/OECD 401）
 経皮：データなし
 吸入（ガス）：データなし
 吸入（蒸気）：データなし
 吸入（粉じん・ミスト）：データなし

《皮膚腐食性/刺激性》
 刺激性あり（ウサギ/CESIO）

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》
 重篤な眼球損傷のリスクあり（ウサギ/CESIO）

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》
 呼吸器感作性：データなし
 皮膚感作性：皮膚感作性なし（主成分のNITEデータ引用）

《発がん性》
 データなし

《生殖細胞変異原性》
 データなし

《生殖毒性》
 データなし

《特定標的臓器毒性（単回暴露）》
 データなし

《特定標的臓器毒性（反復暴露）》
 データなし

《吸引性呼吸器有害性》
 データなし

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11.05

・ 陰イオン系界面活性剤

《急性毒性》

経口:LD50>2000ml/kg(ラット/OECD 401)

《皮膚腐食性/刺激性》

刺激性あり(OECD 404)

《眼に対する重篤な損傷/刺激性》

重篤な眼の損傷(GESIO)

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

皮膚感作性なし(Magnusson/Kligman)

《発がん性》 データなし

《生殖細胞変異原性》

陰性(In vivo小核試験)

《生殖毒性》 データなし

《標的臓器/全身毒性(単回暴露)》

データなし

《標的臓器/全身毒性(反復暴露)》

データなし

《吸引性呼吸器有害性》

製品の動粘性率(40°C)は、20.5mm²/S以下にはならないため区分外

・ ケイ酸塩

《急性毒性》

経口:LD50(経口)ラット 1600mg/kg

LD50(経口)マウス 1100mg/kg

LD50(経口)ウサギ 1100mg/kg

・ ジエチレングリコールモノブチルエーテル

《急性毒性》

経口:List 1の情報源から得られた複数のラットLD50値(6560, 5660, 7300, 9600, 6530, 5080 mg/kg)(DFGOT VII(1992)、ECETOC TR. 64(1995)、PATTY(5th, 2001))が全て5000 mg/kgを超えていることから区分外とした。

経皮:List 1の情報源から得られたラットLD50値(>2000 mg/kg)(DFGOT VII(1992))およびウサギLD50値(2764, 4120 mg/kg)(PATTY(5th, 2001)、EU-RAR(2007))に基づきJIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)とした。

吸入(ガス):GHS定義における液体である。

吸入(蒸気):データなし。

吸入(粉じん、ミスト):ラットに18 ppmで7時間ばく露して死亡なしとの報告(EU-RAR(2007))もあるがデータ不足で分類できない。

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギを用いた試験で「刺激性なし」あるいは「軽度の刺激性」の結果(IUCLID(2000)、BUA(1997)、HSDB(2997))が得られ、ヒトで行ったパッチテストでは一部の被験者に紅斑を認めたのみであった(DFGOT VII(1992)、ECETOC TR. 64(1995)、HSDB(2007))ことからJIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分3)とした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ウサギ眼に適用した試験で中等度の刺激性と組織損傷を示したが、14日以内に回復したと述べられ(ECETOC TR. 64(1995)、PATTY(5th, 2001))、別の試験では強い刺激性(highly irritating)が報告されている(IUCLID(2000))。これらの結果に基づき区分2とした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

(呼吸器感作性)データなし。

(皮膚感作性)モルモットを用いたMaximization testにおいて感作性は見られなかった(Non sensitizer in guinea pig maximisation test., ECETOC TR. 64 1995)ことより、区分外とした。

《生殖細胞変異原性》

体細胞in vivo変異原性試験(マウスの骨髄細胞を用いた小核試験)の陰性結果(DFGOT VII 1992)に基づき区分外とした。なお、in vitro変異原性試験では複数指標での強い陽性結果は見出されていない。

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11. 05

《発がん性》

データなし。

《生殖毒性》

ラットを用いた経口投与による一世代生殖試験(OECD TG 415)、経皮投与による一世代生殖試験、および13週間投与生殖試験の各試験において、出生仔体重のわずかな低下を除き試験物質ばく露の影響は全く見られなかった(DFGOT VII(1992), EU-RAR(1997), HSDB(2007))。一方、妊娠中の器官形成期を含む期間にばく露した試験では、ラットに経口と皮下投与により、マウスに経口投与により、またウサギに経皮投与によりそれぞれ行われているが、マウスの2試験中の1試験での同腹生存仔数の減少を除き催奇形性はもとより仔の発生にも悪影響は示されなかった(DFGOT VII(1992), EU-RAR(1997), HSDB(2007))。以上の結果から、親の性機能および生殖能に加えて仔の発生に対する悪影響もないと判断されるので区分外とした。なお、器官形成期投与のマウスの1試験で見られた同腹生存仔数の減少(HSDB(2007))は、記述により分娩後の観察結果と推測されるが試験法を含め詳細不明である。

《標的臓器／全身毒性(単回暴露)》

ウサギに経口投与により約2000 mg/kg (2130 uL/kg)で死亡が発生し、おおよそ1000～2000 mg/kgで腹臥位となり一過性の無緊張、脱力状態、呼吸促進、麻酔症状に加え腎臓傷害が見られ(DFGOT VII(1992))、また、本物質の主要な急性症状として中枢神経症状と腎臓傷害が記述されている(DFGOT VII(1992))。一方、本物質を含む塗料のばく露を受けたヒトで腎臓傷害が報告されているが(DFGOT VII(1992), BUA Report 204(1977))、本物質の直接的影響ではなくアルコールとの相乗作用によると指摘されている(DFGOT VII(1992))。ウサギの試験結果には腎臓傷害の種類と程度について記載がなく詳細不明である。したがって、腎臓の所見については分類できないが、中枢神経症状は区分2とした。

《標的臓器／全身毒性(反復暴露)》

ラットを用いた6週間(雄のみ)および13週間反復経口投与試験で重大な影響は認められず、NOAELはそれぞれ891 mg/kg/day(カットオフ値:217 mg/kg/day)および250 mg/kg/dayと報告されている(DFGOT VII(1992), HSDB(2007))。また、ラットに13週間経皮ばく露による試験では最高用量2000 mg/kg/dayでも全身影響を示さなかった(EU-RAR(2007))。これらの用量がいずれもガイダンス値の区分2の範囲の上限を超えている。その他に複数の経口、経皮の反復ばく露による試験が実施されているが、それらの結果からガイダンス値範囲に相当する用量での重大な毒性の発現は確認できないことから区分外(経口、経皮)に該当するが、吸入での毒性影響が明確でないことから分類できないとした。

《吸引性呼吸器有害性》

データなし。

12. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

- ・ ポリオキシエチレンアルキルエーテル
 - 《水生環境有害性》(急性)
情報が得られていない
 - 《水性環境有害性》(慢性)
情報が得られていない
- ・ 非イオン界面活性剤
 - 《水生環境有害性》(急性)
魚毒性:LC50 10-100mg/L (96h/zebra fish/OECD 203)
 - 《水性環境有害性》(慢性)
ミジンコ毒性:EC50 10.4mg/L(48h/Daphnia magna/OECD 202)
藻類毒性:EC50 0.82mg/L(72h/Scenedesmus subspicatus/OECD 201)
バクテリア毒性:EC50 190mg/L(Pseudomonas putida/DIN 38412 T.8)

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11.05

・ 陰イオン系界面活性剤

《生態毒性》

魚毒性:LC50 1-5mg/L(96h/zebra fish/OECD 203)

バクテリア毒性:EC50>1000mg/L(Psoudomonas putida/DIN38412T.8)

《残留性/分解性》

生分解性>90%(15d/OECD 302B) 89%(21d/OECD 301E) 78%(28d/OECD 301B)

《生体蓄積性》 データなし

《土壌の移動性》 データなし

《その他》 DOC:322mg/g,COD;1510mg/g

オゾン層への有害性 : データなし

13. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

14. 輸送上の注意

国際規制:

国連分類

クラス8 腐食性物質

国連番号

3253 メタケイ酸ナトリウム

容器等級 : III

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制:

容器イエローラベル

154 毒性物質及び/又は腐食性物質 (不燃性)

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実に行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時には、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15. 適用法令

火薬類取締法:

対象外

高圧ガス保安法:

対象外

消防法: () 内は、指定数量

非危険物(消防法上の非危険物)

不燃物である

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法):

非該当 該当物質は含有しない。

労働安全衛生法:

該当 表示対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

整理番号	ビッククリアーK・ECO 20KG/CS	作成日	2008年11月10日
2882-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2017年3月1日

Ver. 11.05

該当 通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則) :

非該当 該当成分を含有しない。

労働安全衛生法(危険物) :

非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法 (PRTR法) :

該当 PRTR該当成分を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

16. その他の情報(参考文献等)

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA (日本オートケミカル工業会) 編集: 化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版 (日本オートケミカル工業会)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。